

Toyota City Museum
Of
Local History

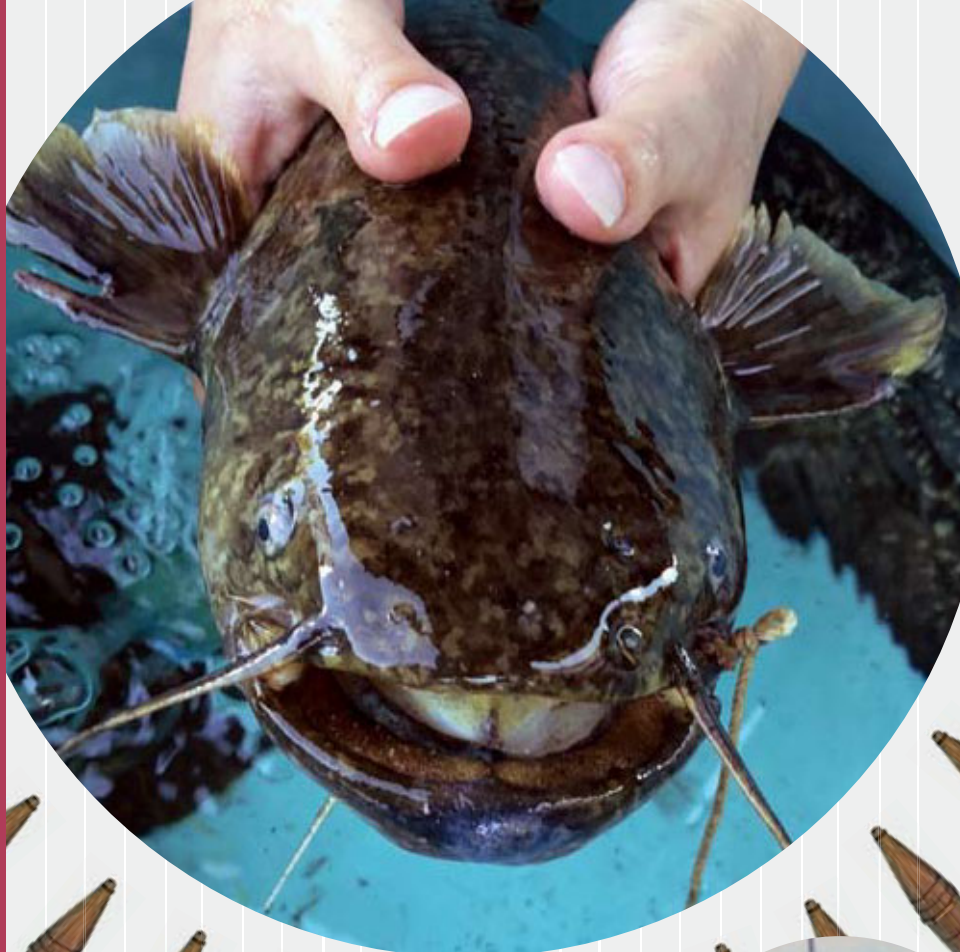
豊田市 郷土資料館だより

No.102

目次

豊田市郷土資料館 新博物館 PRプロジェクト活動中！！	2・3
重要文化財旧鈴木家住宅修理現場からの報告 ～ 旦過寮のナゾ～	4
平成30年度 特別展準備レポート ～ 川で魚をとる！ 広瀬やなの場合～	5
勘八峡へ墜ちてきた全日空機	6
民具調査だより 26 斧と鉞	7
企画展「みんなであつめた災害の記憶 江戸時代から現代まで」後記	8

ISSN 0919 - 0120
20180918 No.102



豊田市郷土資料館 新博物館PRプロジェクト活動中!!

豊田市郷土資料館だより 100号では「多様な歴史・文化・自然に囲まれた豊田市がつくる新しい博物館」と題し、なぜ新しい博物館が必要なのか どのような博物館を目指すのか について紹介しました。今号では、豊田市郷土資料館がどのような活動を通して新博物館PR活動を行っているか、ご紹介します。

『WE LOVE とよたフェスタ』

(平成 30 年 2 月 25 日)

古代人体験（火起こし、縄文・弥生時代の衣服体験）と、新しい博物館に関するアイデア募集を行いました。火起こし体験には、豊田ご当地アイドル Star ☆ T の嶋崎友莉亜さんが来場！一生懸命に取り組んでくれましたが、くしゃみをした瞬間に火種は優しく消えてしまいました……。

体験する



火種がついたら息を吹きかけますが……



くしゃみで火種が吹き飛んでしまいました。

表紙の写真

上：マナズ（ニホンナマズ）

中央：フナ、ウゲ

下：ウゲに入ったカワムツ



『平戸橋桜まつり 2018』

(平成 30 年 4 月 7 日)

古代人体験（火起こし、縄文・弥生時代の衣服体験）、古い道具体験、馬場瀬古墳群見学ツアー、学芸員体験、新しい博物館に関するアイデア募集を行いました。

まなぶ



馬場瀬古墳出土須恵器のレクチャーを行いました。

研究する



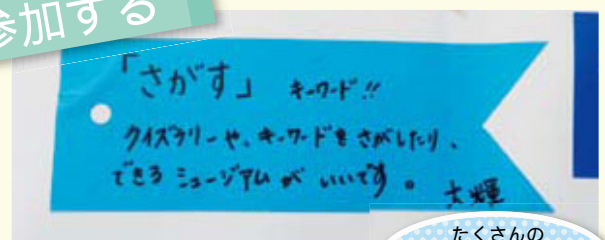
川の石を砕いて鑑定を行いました。

『端午の節句～資料館の五月人形～』

(平成 30 年 4 月 24 日～5 月 13 日)

郷土資料館での五月人形の展示と併せて、鯉のぼりの形をしたシールを用意し、新しい博物館に関するアイデア募集を行いました。

参加する



たくさんのアイデア鯉のぼりが集まりました。

『橋の下世界音楽祭』

(平成 30 年 6 月 1 日～6 月 3 日)

火縄銃射的ゲーム（1等景品として、まが玉作り・カラムシのミサンガ作り体験）、銅鐸鳴らし体験、新しい博物館に関するアイデア募集を行いました。

体験する



本物の縄文土器に触れていただきました。

あそぶ



火縄銃射的はお子様に大人気でした。

☆今後のイベント出演予定☆

平成 30 年 9 月 22 日（土）、23 日（日）
とよた産業フェスタ@豊田スタジアム

平成 30 年 11 月 4 日（日）
朝日丘交流館フェスタ@朝日丘交流館

☆パブリックコメント実施中☆

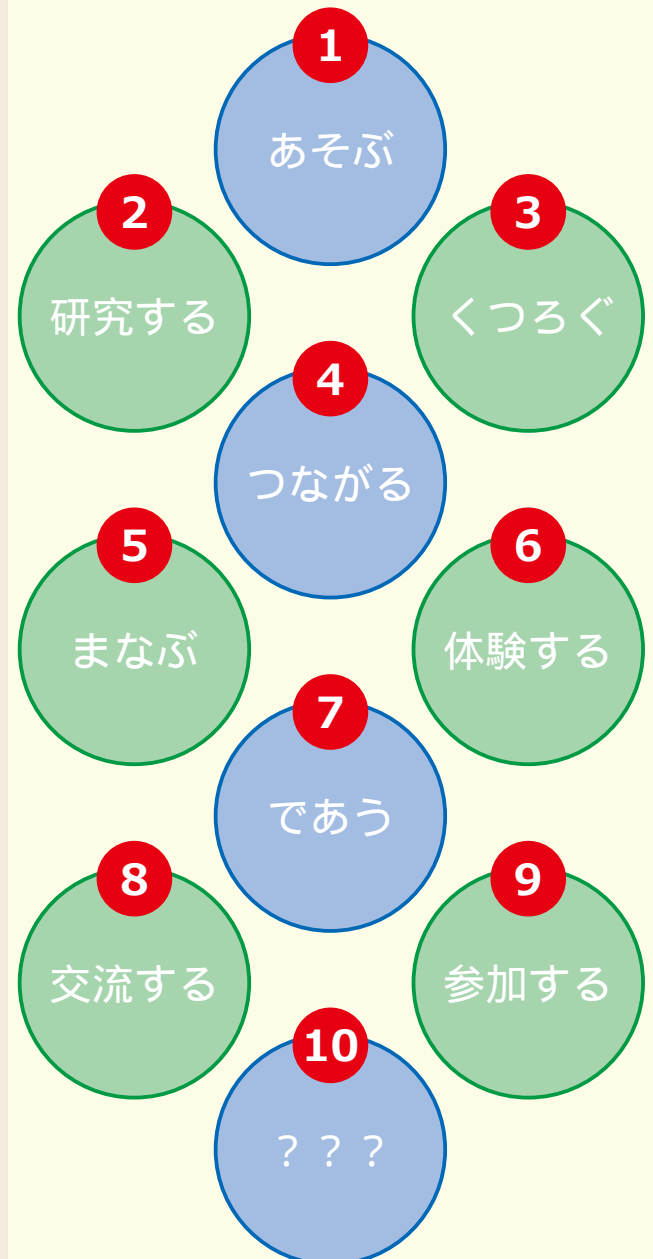
「豊田市新博物館基本計画（素案）」に関するパブリックコメントを実施しています。

平成 30 年 9 月 1 日（土）～9 月 30 日（日）

閲覧場所 豊田市郷土資料館、豊田市役所市政情報コーナー
各支所・出張所、各交流館、市ホームページ

新しい博物館は、各イベントで実施したような「体験する」「まなぶ」といった活動を取り入れ、「みんなが来なくなる」博物館を目指しています。豊田市では、新しい博物館の「あったらいいな！」のキーワードを次のように考えています。

あったらいいな！ **10** のキーワード



最後の 10 個目に当てはまるキーワードは、皆さんから募集しています。今後も様々な場所でアイデア募集を行う予定ですので、ぜひ皆さんのアイデアをお聞かせください。

(門司祐里奈)

～旦過寮のナゾ～

豊田市足助地区にある重要文化財の旧鈴木家住宅は、足助の重要伝統的建造物群保存地区のほぼ中央に位置する町家です。鈴木家は屋号を「紙屋」といい、元々は紙を扱っていたようですが、この他にも味噌や漆を扱ったり、新田経営にもかかわったりしていました。約4,000㎡の土地に江戸時代後期から明治期の建物が16棟建ちならぶ足助屈指の規模の商家の遺構^{ひきつう}です。建築以来大きな修理が行われておらず、建物の腐朽が進んでいたため、平成26年から修理工事に取り掛かっています。

文化財の建物の修理では、修理が必要な部材を解体する際に詳細調査が行われるので、今まで分からなかったことが明らかになることがあります。今回は、詳細調査で分かったことをご紹介します。

「^{たんがりょう}旦過寮」という建物のナゾを解く手がかり

旧鈴木家住宅には、「旦過寮」という建物があります。「旦過」とは、「夕に来て翌朝行き過ぎる」という意味があり、一夜過ごすことを表します。禅宗では、長期修行のために訪れる僧が、すぐに寺に入ることが許されず、数日定められた部屋（これを旦過寮といいます）に入れられ、座禅をして過ごします。旦過寮での厳しい修行を務めあげるにより、心構えが試され、本格的な修行が許されるそうです。

旦過寮という建物が、お寺の境内ではなく商家の屋敷である旧鈴木家住宅の中にあるのは、非常に稀有なことです。鈴木家が、香嵐溪にある香積寺の檀家であったことが深くかかわると思われるのですが、その建物がどのように使われていたかは謎でした。

この謎を解くカギは、旧鈴木家住宅の井戸屋形という建物にありました。襖の修理にあたり、調査のなかで手がかりが発見されました。

襖は損傷が激しく破れており、襖の下張り（襖の芯の下地に貼る紙）が見える状態でした（右写真参照）。かつて紙は貴重であり、帳簿などが建具の下張りに再利用されることがよくありました。この下張りにも文字が書かれており、それを調査したところ、旦過寮について書かれていることが分かりました。一部欠損している部分がありますが、つなぎ合わせて解読することができました。

この資料の冒頭に「^{くげん}口宣」（注意書きの意味）とあり、これは旦過寮の利用規定のようなもので、旦過寮での

日課や、注意事項が書かれています。

朝晩の食事前には、お勤め（読経）をすることや、入浴は、二人ずつ午後4時から8時の間と決められ、旦過寮ではとても規則正しい生活がされていたようです。この他には、修行僧のための食事やお茶の準備、剃髪のための剃刀や砥石などの道具も鈴木家が準備していたことが書かれていました。

修行僧以外にも徳の高いお坊さんの宿泊の受け入れをしていたようで、旦過寮がどのように使われていたかの一端を垣間見ることができました。

このような詳細調査を行うことはとても労力がかかりますが、重要文化財の価値を高めることにつながるとても大事なことです。（松川智一）



写真 旧鈴木家住宅 旦過寮外観

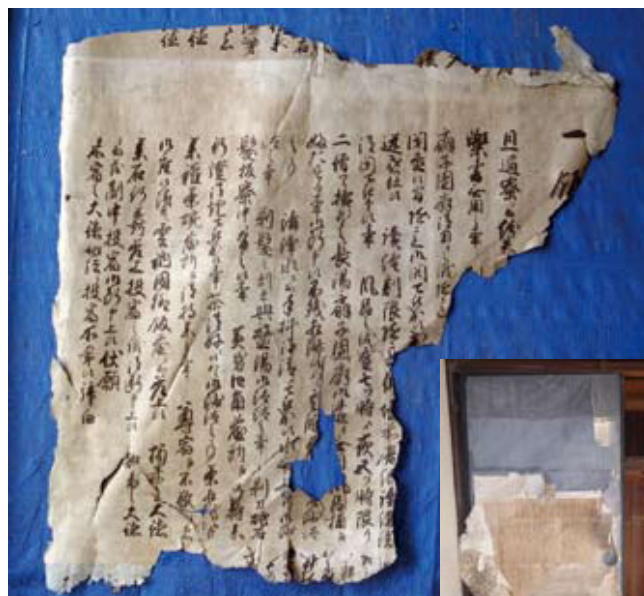


写真 旧鈴木家住宅 井戸屋形襖（右下）
取り出された古文書（左上）

～ 川で魚をとる！ 広瀬やなの場合 ～

年明けから開催予定の郷土資料館特別展（会期：1月19日～3月24日）は、矢作川を中心に、豊田市内の「川」と「自然」、「人々の暮らし」にスポットを当てようと考えています。ここでは、前号に引き続き、広瀬やな組合の方々によって作られるヤナ（西広瀬町）について紹介します。

「大きなカゴ」がヤナの土台に！

前号で紹介した、「大きなカゴ」は、「カゴ（籠）」または「ジャカゴ（蛇籠）」と呼ばれています。カゴは、5種類の大きさがあります。そのうち



カゴを均等に並べていきます。

の4種類は、直径100cm程度、高さ40・80・120・160cmで、ヤナの土台となり勾配をつけるためのものです。残りの1種類は直径190cm、高さ130cmで、ヤナ本体に流水を集めるための堰せきとなります。

ヤナの土台とするカゴを、川の流に並行に4列、垂直に3列並べます。出来上がるヤナは、幅約8m、長さ約12m程になりますが、実は、ヤナには設計図がありません。作る方々のこれまでの経験によって、配置が決められ、一年前とほぼ同じ場所に、同じ大きさのヤナが組み上がっていくのです。

カゴを並べた後、石をカゴの中に入れて重りとし、ドウギと呼ばれる太い丸太をカゴの真ん中に通します。これ



太い丸太（ドウギ）を並べていきます。

で、川の流によってヤナが流されることがなくなります。カゴの上部にもドウギを架けていきます。その後、細い丸太（ヤグイ）を川の流に並行して並べていき、ヤナの形を整えます。そして、ヤグイの上に竹を並べ、タナス（棚簀）を編んでいき



タナスを並べていく様子

ます。ここまでできると、あともう少しでヤナの完成となります。

セイタジメ

ヤナの完成まで、あともう少しとなった6月下旬、「セイタジメ」と呼ばれる作業がありました。セイタは、ヤナの上流側の、魚がかかる場所に取り付ける角材です。このセイタを付けることで、流れ込む水に段差がつき、勢いをつけてタナス部分に魚を落とすことができます。そのため、ヤナを作る工程の中でも最も重要な作業の一つです。セイタを付けるヤナの口の下部にモヤと呼ばれる雑木をかませ、ムシ口を敷き、セイタを取り付けます。



タナスを一目一目編んでいきます。

夕方には、ヤナが無事できることと、ヤナが設営されている間の無事故などの祈願が行われました。セイタの上にお神酒・季節の野菜などのお供え物を置き、ヤナの四方をお神酒で清めます。この祈願が終わると、ヤナ本体に流水を集めるための



重機でセイタを持ち上げ、ヤナに取り付けます。

堰を川の上流に向けてハの字状に作り、ヤナ本体に枠をつけてついに完成となります。

今年の広瀬やなは、7月7日から10月8日まで見ることができます。川で魚をとる道具としては、最も大きなヤナを、一度ご覧ください！（名和奈美）



セイタの上にお供え物を置き、祈願します。

前号（101号）にて、矢作川本流で架設されているヤナの場所の一つを「下川口」と表記しましたが、正しくは「上川口」でした。お詫びして訂正いたします。

勘八峡へ墜ちてきた全日空機

1 概要

昭和37年(1962)11月19日、豊田市(当時は西加茂郡猿投町)勘八峡付近へ全日本空輸(株)所属の4発ターボプロップ旅客機Vickers Viscount828登録記号JA8202が墜落しました。

2 背景

昭和37年当時は、東京オリンピック開催を2年後に控えた東海道新幹線の運用前であり、航空輸送の需要が旺盛でした。全日本空輸(株)は、オランダのFriend Shipを多数機採用し、「ビームライン」と称して国内各地の飛行場と東京国際(羽田)空港を結ぶ路線整備拡張を進めていました。殊に幹線の羽田・伊丹間の輸送には対峙する日本航空(株)との輸送力増強を競っていた中で、乗客数増とスピードアップを狙ってイギリスから最新鋭のViscount機の導入を図っていたため、その操縦パイロットの養成は急務となっていました。

当時、名古屋空港は全日本空輸(株)が運航するわずかな路線しか運用されていないながら、羽田に次ぐ長い滑走路が整備されていました。これは、共同使用していた航空自衛隊小牧基地第3航空団所属F-86Dジェット戦闘機と、隣接する三菱重工で生産される最新鋭F-104J戦闘機の運用に足りる2,740mの長さがありました。そのため、羽田からの航空会社のみならず、横田基地の米軍機もこの滑走路を利用した離発着訓練を行っていました。

3 墜落時の様子

JA8202は10時17分に羽田空港の管制塔へ名古屋空港までの計器飛行方式による飛行の許可申請を無線で発信し、10時28分に4発のエンジンを始動させ、10時37分に離陸しました。当日は天気良く、2分後機長判断で計器飛行をキャンセルし、名古屋空港までの有視界飛行を開始しました。ところが、飛行プランでの到着予定時刻である11時27分を過ぎても同機は名古屋空港に現れませんでした。

以下は、墜落する飛行機を目撃した人々の証言です。

①航空自衛隊浜松基地所属T-6G練習機パイロットが小牧基地から浜松基地への飛行中、11時38分に「豊田市北方10マイル地点で民間大型機がキリモミ状態で地上に激突！」と管制塔へ通報

②豊田市内のグラウンドを離陸した民間所属のヘリコプターパイロットが、11時36分に離陸グラウンドから6km離れた地点で150mほどまで立ち昇る黒煙を目撃

③同時刻頃、豊田市立平井小学校の教師や児童28人が運動場で飛行機の墜落していく様子を目撃以上を踏まえて、墜落は11時35分頃ではなかったかと推測しています。

4 検証できたこと

この航空事故は、同日付中日新聞夕刊に墜落機の写真と共に掲載されました。高校生だった名古屋在住の筆者は稀に見る「飛行機好き」で、あらゆる航空記事の切り抜きをスクラップ帳に貼りつけていました。

後年、職を得て豊田市北部へ居を構えた近傍に「勘八峡」が在ることと昔年のスクラップ帳とが結びついて、その墜落地点を探してみたいとの想いを強くしました。しかし在職中、公はもとより私の方が超多忙(継続している現用飛行機の追っかけ)で叶えられずいました。待ちに待った定年を機会に長年の想いを叶えるべく行動を起こしました。

当時を知る人物を見つけ出すことから始めようと豊田市郷土資料館へ趣旨を打診、紹介を受けた方へ接触を図ってみた結果、案内を受けて墜落現場を現認することができました。今ではうっそうとした雑木林に変化していましたがその地点を示す木標が朽ちた状態でひっそりと建っていました。案内いただいたご夫婦は、当時、山林火災消火作業の召集がかけられ、残骸の搬出にも携わられたそうです。

辺り一面の落ち葉を踏みしめながら、墜落の証拠になる遺品を探してみた結果、その場に不釣り合いのプラスチック片を見つけました。その厚みから窓に使用されたプレキシグラスではないかと推測しています。亡くなられた乗員訓練中の4名の方々のご冥福を祈り、合掌してその場を離れました。

5 最後に

この史実を形に残したいと思いつつ、長い時間がかかってしまいましたが、どうにか形にできました。できることなら現場には後世にも残せる石碑でも建ててあげられたらと思うこのごろです。

(とよた歴史マイスター 丹羽八十)

斧と鉞 ヨキとマサカリ

刻み込まれた七本の筋とは



斧はオノ、ヨキと読みヨキは「与岐」とも書かれます。鉞はマサカリと読み、幅の広い斧をいいます。斧には木を伐るなど、木材を木目と垂直に切るための伐採用の斧(キリヨキ)、薪割りなど木材の木目方向に分割するための薪割り斧(ワリヨキ)があり、昔話に登場する金太郎が担いでいる刃幅が広いマサカリは刃広(ハビロ)とかタヅキなどと呼ばれ、削り作業に使われる道具です。



【キリヨキ】木の繊維を切断できるよう、刃は薄く鋭い。
W41 H251 D(刃幅)80 柄長 912



【ワリヨキ】刃は分厚くて重たく、くさびに近い形状。
W39 H207 D(刃幅)65 柄長 915



【ハビロヨキ】W38 H90 D(刃幅)223 柄長 968

収蔵品の多くの斧や鉞には、振り下ろした状態で左の面に三本、右の面に四本の鑿で刻まれた筋があります。この筋のことを「七つ目」「流し目」「脂ぬき」「稲妻」などと呼びますが、なぜこのような仕様になったのか、その理由については様々な伝承があり大変興味深

いところ。諸説のいくつかをあげてみましょう。

[諸説 - 1]

摩擦の軽減や脂抜きという機能上の理由。

[諸説 - 2]

「身(三)を避(四)ける」といった魔除け説。

[諸説 - 3]

三本の方を「ミキ」と言い、お神酒のこと。四本の方を「ヨキ」といい、ヨキは「地水火風」の四大をさし、四方山の山海の珍味をあらわす。筋の刻まれた道具を木を伐る前に、その木に持たせ掛けて「これから木を伐らしてもらいます」といって拝む。本来ならお神酒や五穀をお供えするのですが山中のことゆえ「ミキ」と「ヨキ」で代用した。

鉞に刻まれた筋



左側にある三本の筋。



右側にある四本の筋。“重光”は足助の広瀬鍛冶の陰刻。

豊田市内での収蔵品の中の多くには、左側の三本の筋の仕様に特徴があり上掲の写真のように単なる三本の筋ではなく真ん中の筋は矢印のように見えるなど、三本の筋側になんらかの筋が加えられたものが見受けられるということ。これは、七は条件充足の聖数であるので、神聖を伴い汚れの中に置くことの不注意や道具を紛失した際、祟りを呼ぶかもしれないといった恐れのため、三筋側の一本にさらなる筋を加え聖数の条件を敢えて不完全なものにしたものであると言われています。



江戸時代に流行した判じ物文様に、「良きこと聞く」があります。斧と琴と万寿菊を添えて、「良い事が耳に入りますように」との意です。この絵の斧は鉞のような形をしています。

(東海民具学会 岡本大三郎)

みんなであつめた 災害の記憶 —江戸時代から現代まで— 後記

今年の夏の企画展「みんなであつめた災害の記憶—江戸時代から現代まで—」では、豊田市で発生した災害の歴史を紹介し、ご来場いただいた方々からも災害の経験談を投稿いただきました。会場に掲示させていただいたものを、ここで少し紹介します。

伊勢湾台風（昭和34年）の記憶 小坂町 当時3歳

まだ、幼児だったので、はっきりとは覚えていませんが、雨戸に板を釘づけして家に閉じこもっていました。次の日だったか、庭に出たら物置小屋が無くなっており、仕舞ってあった鯉^{のぼり}も無くなってしまったのが、一番残念な思い出です。

伊勢湾台風は風がとても強く、家族で雨戸を押えていたという話をよく聞きました。市内でも多くの家屋が倒壊し、拳母神社の大木も倒れました。

四七・七災害（昭和47年）の記憶

トヨタ町 当時26歳

当日は、トヨタの旧本館で残業をしていました。降り続いていた雨は、夜になると一段と強くなりました。旧本館の裏手は低くなっており、そこに停まっていた車数台が浮かんで流されていくのを見ました。「車って簡単に水に浮くんだ」と感心(?)しました。当日は、通勤のカロラを新婚の同僚に貸し、私は会社の会議室泊でした。

昭和47年7月の集中豪雨は、小原・藤岡地区に山崩れなどの大きな被害をもたらし、市の中心部でも多くの家屋が浸水しました。

山崩れ、河川の洪水、低地の浸水は、江戸時代から現代まで繰り返し起きています。自分の住んでいる地域にどのような災害の危険があるか知り、避難経路などを確認しておくことが大切です。



投稿いただいた経験談の掲示



会場の様子

(山田佳美)

豊田市郷土資料館利用案内

開館時間 午前9時～午後5時
 休館日 毎週月曜日（祝祭日は開館）
 入館料 無料（特別展開催中は有料）
 交通案内 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分
 名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分
 愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩15分
 とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ 徒歩5分
 駐車場 約20台

豊田市郷土資料館だより No.102

平成30年9月18日発行
 編集・発行 豊田市郷土資料館
 〒471-0079 豊田市陣中町1-21-2
 TEL.0565-32-6561 FAX.0565-34-0095
 E-mail rekihaku@city.toyota.aichi.jp
 URL <http://www.toyota-rekihaku.com>
 FB <http://facebook.com/toyotarekihaku>
 豊田市郷土資料館だよりは、HPでもご覧いただけます。